

② 豊かな自然

「自然は一番の教師」と云われるように、子どもたちは自然の中から様々なものを吸収します。幼児期に「自然に触れる」ことは、とても大切です。例えば、バッタやカマキリ、カエルなどの生き物を「いいな！」と思って触れることができるのは、幼児の特権です。触れた経験がないと、大人になってから触れることができません。



園には、草むらや土の隅に様々な生き物が隠れていて、子どもたちはどこに何が潜んでいるのか把握しています。ビオトープでは水の生き物に直に触れることを楽しめます。



お散歩でちょっと足をのばすと、もっと大きな自然を感じたり、地域の方々のご厚意で様々なことを体験することができます。



そしてもうひとつ、身近にある自然の中には、

砂・土・水があります。

子どもはこれらに触れるのが大好きです。泥団子を作る子どもたちは、どんな土で作ると硬くなるのか、どうやったら壊れないかを試行錯誤しながら楽しめます。何度もチャレンジする姿は、まるで科学者のようです。このように、自然の中で感性をみがき、好奇心や探求心を養うことができる体験を、大切にしていきたいと思えます。

